

証券コード 1743

平成30年12月5日

株 主 各 位

鹿児島市伊敷五丁目17番5号

コーアツ工業株式会社

代表取締役社長 吉 田 三 郎

第60回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第60回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成30年12月20日（木曜日）午後5時30分までに到着するようご送付いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成30年12月21日（金曜日）午前10時
2. 場 所 鹿児島市伊敷五丁目17番5号
当社本社 3階会議室
3. 会議の目的事項
報告事項
 1. 第60期（平成29年10月1日から平成30年9月30日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第60期（平成29年10月1日から平成30年9月30日まで）計算書類の内容報告の件

決 議 事 項

- 第1号議案 剰余金処分の件
- 第2号議案 取締役1名選任の件
- 第3号議案 監査役3名選任の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.koatsuind.co.jp/>）に掲載させていただきますのでご了承ください。

## (添付書類)

# 事業報告

(平成29年10月1日から  
平成30年9月30日まで)

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### (1) 企業集団の事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国の経済は、好調な企業業績を背景に設備投資は堅調に推移するなど、回復基調が継続しておりますが、先行きへの不安は払拭されず、個人消費は依然として低迷しております。また米中間の通商問題等の国際情勢による国内経済への影響など、依然として先行き不透明な状況であります。

建設業界におきましては、各地で多発する自然災害による復旧復興関連事業や既存インフラの耐震補強並びに補修事業、東京オリンピック・パラリンピックに伴うインフラ整備など、緊急性・先行性を有する公共投資は堅調に推移しているものの、業界の慢性的な人手不足に伴う労務費・資材購入費の高騰等も影響し、厳しい経営環境が続いております。

このような中、当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ。）は当期経営基本方針として「挙社一致、わが社の働き方改革の推進力を、より良い受注と生産性向上を目指すことより、発揮する。」を掲げ、鋭意努力してまいりました。その結果、売上高におきましては96億87百万円と前連結会計年度に比し5億28百万円（5.8%増）の増収になりました。また、建設事業におきまして完成工事高が増加した中で工事原価の圧縮に努めた結果、経常利益は4億18百万円と前連結会計年度に比し99百万円（31.2%増）の増益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、資産の使用用途変更による減損損失が発生したため、2億44百万円と前連結会計年度に比し53百万円（17.8%減）減益となりました。

当連結会計年度の受注高、売上高及び繰越高は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

| 事業の種類別     | 前期繰越高 | 当期受注高 | 当期売上高 | 次期繰越高 |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| 建設事業       | 9,387 | 7,765 | 7,890 | 9,262 |
| コンクリート製品事業 | 379   | 1,380 | 1,519 | 241   |
| 不動産事業      | —     | 133   | 133   | —     |
| 売電事業       | —     | 107   | 107   | —     |
| その他        | —     | 36    | 36    | —     |
| 合計         | 9,766 | 9,424 | 9,687 | 9,503 |

## (2) 企業集団の資金調達の状況

特記すべき資金調達はありません。

## (3) 企業集団の設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資の総額は2億38百万円であります。

主なものは、コンクリート製品事業の熊本工場プラント設備であります。

## (4) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

(単位：百万円)

| 区 分                              | 第 57 期<br>(平成27年 9 月期) | 第 58 期<br>(平成28年 9 月期) | 第 59 期<br>(平成29年 9 月期) | 第60期(当連結会計年度)<br>(平成30年 9 月期) |
|----------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------------|
| 受 注 高                            | 7,769                  | 10,759                 | 10,659                 | 9,424                         |
| 売 上 高                            | 7,358                  | 6,876                  | 9,159                  | 9,687                         |
| 経 常 利 益                          | 145                    | 59                     | 319                    | 418                           |
| 親会社株主に帰属する当期純利益<br>又は当期純損失(△)    | 75                     | △68                    | 297                    | 244                           |
| 1株当たり当期純利益又は<br>1株当たり当期純損失(△)(円) | 99.61                  | △90.04                 | 392.69                 | 322.91                        |
| 総 資 産                            | 9,554                  | 9,740                  | 11,080                 | 11,381                        |
| 純 資 産                            | 6,089                  | 5,934                  | 6,282                  | 6,483                         |
| 1株当たり純資産額(円)                     | 8,025.31               | 7,821.09               | 8,283.67               | 8,550.33                      |

(注) 1. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失は、期中平均株式数により算出しております。

2. 平成29年4月1日付で普通株式について10株を1株の割合で株式併合を行っておりますが、第57期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純損益及び1株当たり純資産額を算定しております。

3. 各連結会計年度の主な変動要因は次のとおりであります。

- ・平成28年9月期……………受注物件の獲得競争の厳しさが継続している中で、受注高は増加しましたが、売上高は減少しました。労務費・材料費の圧縮等に努めましたが、経常利益、親会社株主に帰属する当期純損失ともに減益となっております。
- ・平成29年9月期……………受注物件の獲得競争の厳しさは継続しており、受注高はやや減少したものの、大型工事の繰越により売上高は増加しました。材料費等の圧縮に努めた結果、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに増加となっております。
- ・当連結会計年度……………既述の「(1)企業集団の事業の経過及びその成果」をご参照ください。

## (5) 対処すべき課題

当社グループの位置する建設業界におきましては、各地で多発する地震や豪雨災害、更には大型台風被害等の自然災害による復旧復興関連事業や既存インフラの耐震補強・補修事業、東京オリンピック・パラリンピックに伴うインフラ整備など、緊急性・先行性を有する公共投資は堅調に推移しているものの、業界の慢性的な人手不足に伴う労務費・資材購入費の高騰等が影響し、厳しい経営環境が予想されます。

今後の展開につきましては、地元九州のみならずより広範囲の受注を目指し、安全施工・高品質施工・高精度施工により受注のための工事評点向上に努めてまいります。また、建設業界で進めている工事部材のプレキャスト化の方向性に乘れる様、取り組んでまいります。

更に「働き方改革」につきましても、有給休暇の取得促進や週休2日制など積極的に推進することにより、社員のモチベーション向上を図っていくとともに、人手不足に対応するため積極的な人材確保と人材育成を全社を挙げて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## (6) 主要な事業内容（平成30年9月30日現在）

### （建設事業）

当事業は、一般土木の施工と違い、当社を中心とした橋梁工事部門と基礎工事部門及び連結子会社(株)ケイテックを中心とした橋梁・各種構造物の補修工事部門にて事業活動を行っております。

### （コンクリート製品事業）

当事業は、当社にて製造したPC関連を中心としたコンクリート製品及び一般土木用コンクリート製品の販売、同製品の連結子会社(株)ケイテックにおける販売、当社における消波・根固用として使用される土木用ブロックの鋼製型枠の賃貸の各事業を行っております。

### （不動産事業）

当事業は、当社にてホテル施設を主体とした不動産の賃貸、並びに販売事業を行っております。

### （売電事業）

当事業は、太陽光発電による売電に関する事業を行っております。

### （その他）

海外での橋梁工事の施工管理請負事業を行っております。

なお、平成30年6月1日付にて食品事業を営んできたさつま郷本舗(株)の全株式を譲渡し、食品事業から撤退いたしております。

## (7) 主要な事業所（平成30年9月30日現在）

### 当社

本社：鹿児島県鹿児島市伊敷五丁目17番5号

支店：東京支店（東京都港区）  
大阪支店（大阪市淀川区）  
福岡支店（福岡市中央区）

事業所：南栄事業所（鹿児島県鹿児島市）  
営業所：東北営業所（宮城県仙台市）  
茨城営業所（茨城県笠間市）  
横浜営業所（神奈川県横浜市）  
名古屋営業所（愛知県清須市）  
神戸営業所（兵庫県神戸市）  
山口営業所（山口県山口市）  
北九州営業所（北九州市小倉南区）  
佐賀営業所（佐賀県佐賀市）  
長崎営業所（長崎県長崎市）  
熊本営業所（熊本県熊本市）  
宮崎営業所（宮崎県宮崎市）  
鹿屋営業所（鹿児島県肝属郡）  
川内営業所（鹿児島県薩摩川内市）  
沖縄営業所（沖縄県浦添市）

工場：熊本工場（熊本県宇城市）  
大隅工場（鹿児島県肝属郡）  
機材センター（鹿児島県薩摩川内市）

### 子会社

株式会社ケイテック

本店：福岡県福岡市中央区赤坂一丁目13番10号 赤坂有楽ビル

(注) 100%所有の子会社であったさつま郷本舗株式会社は、平成30年6月1日付で所有株式の全てを売却いたしました。

## (8) 従業員の状況（平成30年9月30日現在）

### ① 企業集団の状況

| 事業区分       | 従業員数 | 前連結会計年度末比増減 |
|------------|------|-------------|
| 建設事業       | 208名 | 3名増         |
| コンクリート製品事業 | 40   | 4名増         |
| 不動産事業      | —    | —           |
| 売電事業       | —    | —           |
| その他        | —    | 1名減         |
| 全社（共通）     | 14   | 2名減         |
| 合計         | 262  | 4名増         |

- (注) 1. 上記従業員数には、臨時従業員は含んでおりません。  
2. 不動産事業及び売電事業は、全社部門が統括しております。  
3. 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### ② 当社の状況

| 従業員数 | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|-----------|-------|--------|
| 236名 | 6名増       | 44.5歳 | 15.5年  |

(注) 上記従業員数には、臨時従業員は含んでおりません。

## (9) 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

### ② 子会社の状況

| 会社名         | 資本金   | 出資比率 | 主な事業内容                 |
|-------------|-------|------|------------------------|
| ㈱ ケ イ テ ッ ク | 45百万円 | 100% | 土木建築構造物の維持補修の計画、設計及び施工 |

(注) さつま郷本舗㈱については、平成30年6月1日に株式の全てを譲渡したため、子会社から除外しております。

## (10) 主要な借入先の状況（平成30年9月30日現在）

| 借入先          | 借入金残高  |
|--------------|--------|
| (株) 商工組合中央金庫 | 635百万円 |
| (株) 鹿児島銀行    | 117    |

(注) 上記借入金のほか、以下の社債の当連結会計年度末残高があります。  
鹿児島銀行 鹿児島銀行保証付無担保社債 200百万円

## 2. 会社の株式に関する事項（平成30年9月30日現在）

- (1) 発行可能株式総数 3,040,000株
- (2) 発行済株式の総数 758,257株(自己株式1,743株を除く)
- (3) 株主数 479名
- (4) 上位10名の株主

| 株主名          | 持株数     | 持株比率  |
|--------------|---------|-------|
| (株) 植村組      | 67,900株 | 8.95% |
| (株) ガイアテック   | 67,876株 | 8.95% |
| (株) 南日本運輸建設  | 49,460株 | 6.52% |
| コーアツ工業共栄会    | 49,100株 | 6.48% |
| (株) 日本地下技術   | 42,480株 | 5.60% |
| コーアツ工業従業員持株会 | 33,490株 | 4.42% |
| 松澤孝一         | 25,800株 | 3.40% |
| (株) 鹿児島銀行    | 24,000株 | 3.17% |
| 鹿児島リース(株)    | 24,000株 | 3.17% |
| 南日本開発(株)     | 20,088株 | 2.65% |

(注) 持株比率は、自己株式(1,743株)を除く発行済株式の総数に対する持株数の割合であります。

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

#### 4. 会社役員に関する事項（平成30年9月30日現在）

##### (1) 取締役及び監査役の状況

| 地 位     | 氏 名                    | 担 当           | 重 要 な 兼 職 の 状 況                                          |
|---------|------------------------|---------------|----------------------------------------------------------|
| 代表取締役社長 | よし だ さぶ ろう<br>吉 田 三 郎  |               |                                                          |
| 常務取締役   | にし なり ひと<br>西 成 人      | 管理本部長         |                                                          |
| 常務取締役   | で ぐち みのる<br>出 口 稔      | 営業本部長         |                                                          |
| 取 締 役   | き した ひろ し<br>木 下 博 志   | 工事本部長         | (株)ケイテック代表取締役社長                                          |
| 取 締 役   | ごまくぼ りゅう じ二<br>胡摩窪 隆 二 | 営業部長兼<br>調査室長 |                                                          |
| 取 締 役   | ご りょう とし ひろ<br>御 領 敏 博 |               |                                                          |
| 取 締 役   | た むら ひで はる<br>田 村 英 晴  |               | (株)ウエムラ取締役                                               |
| 取 締 役   | ふく もと しん いち<br>福 元 紳 一 |               | 福元法律事務所 所長<br>(株)新日本科学社 外取締役<br>ソフトマックス(株)社外取締役          |
| 常勤監査役   | はぎ はら きよ ふみ<br>萩 原 清 文 |               |                                                          |
| 監 査 役   | いし どう かず お<br>石 堂 和 雄  |               | (有)石堂建設代表取締役社長                                           |
| 監 査 役   | まつのした ごう いち<br>松野下 剛 市 |               | 松野下剛市公認会計士事務所 所長<br>フェアサイド総合税務会計事務所 代表<br>松野下剛市税理士事務所 所長 |

(注)1. 取締役御領敏博氏、田村英晴氏及び福元紳一氏は、社外取締役であります。

2. 監査役石堂和雄氏及び松野下剛市氏は、社外監査役であります。

3. 監査役松野下剛市氏は、公認会計士及び税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

4. 当社は取締役御領敏博氏、取締役福元紳一氏及び監査役松野下剛市氏を東京証券取引所及び福岡証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

5. 取締役胡摩窪隆二氏は、平成29年12月21日開催の第59回定時株主総会において、新たに選任され就任いたしました。

## (2) 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役及び各社外監査役は会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

## (3) 取締役及び監査役の報酬等の総額

| 役員区分               | 報酬等の総額<br>(百万円) | 報酬等の種類別の総額 (百万円) |               |    |       | 対象となる<br>役員の員数<br>(人) |
|--------------------|-----------------|------------------|---------------|----|-------|-----------------------|
|                    |                 | 基本報酬             | ストック<br>オプション | 賞与 | 退職慰労金 |                       |
| 取締役<br>(社外取締役を除く。) | 25              | 25               | —             | —  | —     | 5                     |
| 監査役<br>(社外監査役を除く。) | 6               | 6                | —             | —  | —     | 1                     |
| 社外取締役              | 3               | 3                | —             | —  | —     | 3                     |
| 社外監査役              | 1               | 1                | —             | —  | —     | 2                     |
| 計                  | 36              | 36               | —             | —  | —     | 11                    |

- (注) 1. 取締役の支給額には、従業員兼務取締役の従業員分給与は含まれておりません。  
2. 取締役の報酬限度額は、平成10年12月18日開催の第40回定時株主総会において年額80百万円以内（ただし、従業員分給与は含まない。）と決議いただいております。  
3. 監査役の報酬限度額は、平成8年9月5日開催の臨時株主総会において年額15百万円以内と決議いただいております。

## (4) 社外役員に関する事項

- ① 他の法人等の重要な兼務の状況等及び当社と当該他の法人等との関係
- ・ 取締役田村英晴氏は、株式会社ウエムラの取締役であります。当社は兼職先に業務管理を委託しております。
  - ・ 取締役福元紳一氏は、福元法律事務所の所長であり、株式会社新日本科学及びソフトマックス株式会社の社外取締役であります。当社は福元法律事務所に顧問弁護士業務を依頼しております。株式会社新日本科学及びソフトマックス株式会社との間には特別な関係はありません。
  - ・ 監査役石堂和雄氏は、有限会社石堂建設の代表取締役社長であります。当社と兼職先との間には建設工事請負等の関係があります。
  - ・ 監査役松野下剛市氏は、フェアサイド総合税務会計事務所の代表であります。当社は兼職先に税務顧問業務を依頼しております。

② 社外役員の主な活動状況

|             | 主 な 活 動 状 況                                                                                                                                       |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取締役 御 領 敏 博 | 当事業年度に開催された取締役会16回全てに出席いたしました。主に金融機関における経験及び会社役員としての経験に基づき適宜必要な発言を行っております。                                                                        |
| 取締役 田 村 英 晴 | 当事業年度に開催された取締役会16回全てに出席いたしました。当社の経営に対し、企業役員としての経験に基づき適宜必要な発言を行っております。                                                                             |
| 取締役 福 元 紳 一 | 当事業年度に開催された取締役会16回のうち14回に出席いたしました。主に弁護士としての専門的見地から意見を述べるなど経営の監視や適宜必要な発言を行っております。                                                                  |
| 監査役 石 堂 和 雄 | 当事業年度に開催された取締役会16回のうち13回、監査役会については11回のうち10回に出席いたしました。主に経験豊富な経営者の観点から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行うほか、監査役会においては、監査結果の意見交換及び議案審議の必要に応じて発言を行っております。 |
| 監査役 松野下 剛市  | 当事業年度に開催された取締役会16回のうち12回、監査役会については11回全てに出席いたしました。公認会計士としての専門的見地から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行うほか、監査役会においては、監査結果の意見交換及び議案審議の必要に応じて発言を行っております。    |

## 5. 会計監査人の状況

(1) 名称 有限責任監査法人トーマツ

### (2) 報酬等の額

| 区 分       | 監査証明業務に<br>基づく報酬 | 非監査証明業務に<br>基づく報酬 | 計     |
|-----------|------------------|-------------------|-------|
| 当 社       | 21百万円            | —                 | 21百万円 |
| 連 結 子 会 社 | —                | —                 | —     |
| 計         | 21百万円            | —                 | 21百万円 |

(注) 1. 当社と会計監査人との監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

### (3) 責任限定契約

該当事項はありません。

### (4) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### (5) 会計監査人の解任又は不再任の決定方針

監査役会は会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められた場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

## 6. 業務の適正を確保するための体制等の整備及び運用状況

当社は取締役の職務が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他当社及び子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するための体制につきまして、「内部統制基本方針」を制定し、以下のとおり行うこととしております。

### (1) 取締役、従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ①当社グループの役員及び従業員は、社会構成員として法令・定款を遵守し適合することを確保するため、社会の一員として社会倫理の遵守を企業活動の基本とし、企業理念、企業行動規範、企業行動基準に則した実践的運用と徹底を行う体制を構築する。
- ②当社グループの役員は、社会規範・倫理並びに法令などの遵守により公正かつ適切な経営の実現と市民社会との調和を図るため、コンプライアンス・リスク管理規程の定めに従い、当社グループ全体における企業倫理の遵守及び浸透を率先垂範して行う。
- ③代表取締役は、管理本部長をコンプライアンス全体に関する総括責任者として任命し、コンプライアンス体制の構築・維持並びに整備にあたる。あわせて法令遵守上疑義のある行為について、従業員が直接通報を行う手段を確保する。この通報については、通報者の希望により匿名性を保証し、通報者に不利益がないことを確保する。
- ④コンプライアンスの主管部署としてISO・コンプライアンス室を設置し、当社グループの横断的なコンプライアンス体制の整備及び問題点の把握に努める。
- ⑤監査役と内部監査室は連携を密にし、コンプライアンス体制の調査、法令並びに定款上の問題の有無を調査し、問題の把握と改善に努める。この際、内部監査室は定期的に内部監査を実施し、その結果を被監査部門にフィードバックするとともに、代表取締役及び監査役に適宜報告する。
- ⑥当社及びグループ会社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切の関係を遮断するとともに、これらの活動を助長するような行為は一切行わない。また、反社会的勢力からの接触があった場合には、必要に応じ警察その他関係機関と連携して組織的な対応を行う。

### (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ①取締役の職務執行に係る情報については、管理基準及び管理体制を整備し、法令及び社内規程に基づき作成・保存する。また、これらの管理状況については監査役の監査を受ける。

②取締役及び会計監査人からの閲覧の要請があった場合は、速やかに閲覧が可能な状態として本社において保管する。

③法令及び適時開示規則に基づき必要な情報開示を行う。

### **(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制**

①代表取締役は、管理本部長をリスク管理に関する総括責任者に任命し、取締役会において各部門のリスクマネジメント業務を協議し、リスクマネジメントの基本方針、推進体制を決定する。

②全社的なリスクを総括的に管理する部門を設定する。各部門においては基本方針・関連規程等に基づき、各部門のリスク管理体制を確立する。

③監査役及び内部監査室は各部門のリスク管理状況を監査し、その結果を取締役会に報告する。取締役会は定期的にリスク管理体制を見直し、問題点の把握と改善に努める。

### **(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**

①取締役会は、取締役会が定める経営機構、取締役及び業務執行責任者等の職務分掌に基づき、各取締役及び業務執行責任者に業務の執行を行わせる。

②取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を定例的(月1回)に開催する。また、この取締役会は必要に応じて臨時に開催する。

③取締役の職務執行に係る情報の作成・保存・管理状況について、監査役の監査を受ける。

### **(5) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制**

①子会社の取締役の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制、並びに子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

(ア) 子会社の代表取締役は、コンプライアンス・リスク管理委員会に出席して職務の執行状況を報告する。

(イ) グループ会社に関する一定の事項については、当社の取締役会における承認を要するものとする。

(ウ) 内部監査室は、グループ会社における内部監査を実施又は統括し、グループ業務全般にわたる内部統制の有効性と妥当性を確保する。内部監査の年次計画、実施状況及びその結果は、代表取締役及び監査役に報告する体制を構築する。

(エ) 当社グループにおけるリスク管理に関する重要な方針は、取締役会その他の重要な機関において決定するものとする。

- ②子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制、並びに子会社の取締役等の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- (ア) 当社は業務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための諸施策に加え、当社グループの企業集団としての業務の適正と効率性を確保するために必要な、グループとしての規範・規則を「関係会社管理規程」として整備する。
- (イ) 当社グループに属する会社間の取引は、法令・会社原則・税法その他社会規範に基づく適切なものでなければならない。
- (ウ) 取締役及び業務執行責任者は、それぞれの職務分掌に従い、グループ会社が適切な内部統制システムの整備及び運用を行うよう指導する。
- (6) **監査役がその職務を補助すべき従業員を置くことを求めた場合における当該従業員に関する事項及び当該従業員の取締役からの独立性に関する事項**
- ①監査役の職務を補助すべき従業員として当社の従業員から監査役補助者を任命する。
- ②監査役補助者の任命、解任等については、監査役会の同意を得た上で取締役会が決定することとし、取締役からの独立を確保する。
- (7) **監査役の上記(6)の従業員に対する指示の実効性の確保に関する事項**
- 監査役の職務を補助すべき従業員に関しては、監査役の指示命令に従うとともに、従業員の所属部署に関わる監査補助は行わないこととする。
- (8) **次に掲げる体制その他の監査役への報告に関する体制**
- ①取締役及び業務執行責任者は、取締役会等の重要な会議において随時その担当する業務の執行状況の報告を行う。
- ②取締役及び業務執行責任者は、会社に重大な損失・悪影響を与える事項、又はその恐れがある事項及び違法・不正行為について、発見次第速やかに監査役に対し報告を行う。
- ③監査役は必要に応じていつでも、取締役及び従業員に対して業務に関する書類の提示を求めることができるものとする。
- ④監査役は取締役会及びコンプライアンス・リスク管理委員会等の会社の重要会議に出席して報告を受ける。
- (9) **上記(8)の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制**
- 当社及び子会社は、当社グループの従業員に対し監査役が出席するコンプライアンス・リスク管理委員会に直接通報するよう周知徹底するとともに、その通報行為に対して不利益を課さない旨をコンプライアンス・リスク管理

規程に明記する。

(10) 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査役の職務の執行について生ずる費用等は、毎期の利益計画に一定額の予算を設ける。

(11) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ① 監査役会と代表取締役社長が相互の意思疎通を図るための定期的な意見交換会を設定する。
- ② 監査役は、内部監査室と緊密な連携を保つとともに、必要に応じて内部監査室に調査を求める。
- ③ 監査役は、会計監査人の年次「監査計画概要書」について事前に確認し、会計監査人の監査方法・結果の正当性を判断するとともに、定期的に監査結果の報告を受ける。
- ④ 監査役と会計監査人が相互に連携し、効率的な監査のできる体制を確保する。

(12) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は「内部統制基本方針」を制定し、取締役の職務が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他当社及び子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するための体制を運用しております。当期における運用状況の概要は以下のとおりであります。

当社グループでは、財務報告に係る内部統制を中心に体制の整備及び運用を行っております。内部統制委員会の各担当者は、毎事業年度に立案する評価計画を基に内部統制の整備・運用状況の評価を行い、内部監査室が、通常のグループ内部監査と合わせてその検証や確認を行っております。

内部統制委員会による内部統制の評価状況や、運用上検出された問題点・リスク及びその対応状況は、内部監査室の確認を経て、定期的に取り締役会及び監査役会に報告しております。また、内部監査室による内部監査の結果は、適宜社長及び監査役会まで報告されております。

取締役会では、重要な職務に関する意思決定や当社及び子会社の月次の業績報告等がなされており、当事業年度は16回開催いたしました。監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成されており、取締役会の他、監査役会の定期的な開催や稟議書等の常時閲覧、内部監査室との会合等を通じて、監査の実効性の向上を図っております。

~~~~~  
以上のご報告における記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(平成30年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流 動 資 産	3,901,814	流 動 負 債	3,795,705
現金預金	587,849	支払手形・工事未払金等	2,645,219
受取手形・完成工事未収入金等	2,702,479	短期借入金	1,000
販売用不動産	89,206	1年内返済予定の長期借入金	181,320
未成工事支出金	72,427	リース債務	30,300
商品及び製品	120,412	未払法人税等	48,227
仕掛品	5,815	未成工事受入金	419,796
材料貯蔵品	34,407	完成工事補償引当金	7,600
繰延税金資産	112,168	工事損失引当金	8,500
その他	177,048	賞与引当金	150,340
固 定 資 産	7,480,165	災害損失引当金	855
有形固定資産	6,160,401	その他	302,546
建物・構築物	1,270,772	固 定 負 債	1,102,924
機械・運搬具・工具器具備品	675,772	社 債	200,000
土地	3,975,056	長期借入金	570,480
リース資産	220,100	リース債務	189,800
建設仮勘定	18,700	繰延税金負債	63,215
無形固定資産	25,792	その他	79,429
投資その他の資産	1,293,971	負 債 合 計	4,898,630
投資有価証券	1,039,772	(純資産の部)	
退職給付に係る資産	17,694	株 主 資 本	6,343,357
繰延税金資産	2,901	資 本 金	1,319,000
その他	496,081	資本剰余金	1,278,500
貸倒引当金	△262,478	利益剰余金	3,751,002
資 産 合 計	11,381,979	自己株式	△5,144
		その他の包括利益累計額	139,991
		その他有価証券評価差額金	100,067
		退職給付に係る調整累計額	39,923
		純 資 産 合 計	6,483,349
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	11,381,979

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(平成29年10月1日から
平成30年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	金 額
高 事 高 高 高 入	7,890,784	9,687,634
高 事 高 高 入	1,555,618	
高 事 高 高 入	133,542	
高 事 高 高 入	107,688	
原 価 原 価 原 価	6,684,379	8,360,452
原 価 原 価 原 価	1,518,902	
原 価 原 価 原 価	89,525	
原 価 原 価 原 価	67,644	
総 利 益 総 利 益 総 利 益	1,206,404	1,327,182
総 利 益 総 利 益 総 利 益	36,715	
総 利 益 総 利 益 総 利 益	44,016	
総 利 益 総 利 益 総 利 益	40,044	
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		921,689
営 業 外 収 益		405,492
受 取 利 息 及 び 配 当 金	10,216	33,991
受 取 賃 貸 料	9,958	
受 取 保 険 金	4,048	
作 業 上 の 収 益	2,626	
そ の 他	7,141	
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	11,235	20,621
支 払 保 証 料	7,707	
そ の 他	1,678	
特 別 利 益		418,861
特 別 損 失		
特 別 損 失	1,200	1,200
特 別 損 失	7,468	107,390
特 別 損 失	5	
特 別 損 失	98,380	
特 別 損 失	1,536	
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		312,671
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	62,053	67,803
法 人 税 等 調 整 額	5,750	
当 期 純 利 益		244,868
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		—
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		244,868

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(平成29年10月1日から
平成30年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当 期 首 残 高	1,319,000	1,278,500	3,544,051	△4,805	6,136,745
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△37,918		△37,918
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			244,868		244,868
自 己 株 式 の 取 得				△338	△338
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額 (純 額)					
当 期 変 動 額 合 計	—	—	206,950	△338	206,612
当 期 末 残 高	1,319,000	1,278,500	3,751,002	△5,144	6,343,357

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当 期 首 残 高	124,688	20,573	145,261	6,282,007
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当				△37,918
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益				244,868
自 己 株 式 の 取 得				△338
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額 (純 額)	△24,620	19,350	△5,270	△5,270
当 期 変 動 額 合 計	△24,620	19,350	△5,270	201,342
当 期 末 残 高	100,067	39,923	139,991	6,483,349

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結注記表

[連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記]

1. 連結の範囲に関する事項

全ての子会社（1社（株）ケイテック）を連結しております。

なお、さつま郷本舗(株)につきましては、平成30年6月1日付で当社が保有する全ての株式を売却したことにより、当該日以降につきましては、連結子会社から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの……………連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの……………移動平均法による原価法

② 棚卸資産の評価基準及び評価方法

販売用不動産……………個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

未成工事支出金……………個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

製品、仕掛品及び材料……………総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

貯蔵品……………最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物・構築物 8年～50年

機械・運搬具・工具器具備品 3年～17年

- ② 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。
- ③ リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 完成工事補償引当金
完成工事の瑕疵担保の費用に備えるため、過去における完成工事高に対する補修費の割合を基礎に将来の補修費の見込額を加味して計上しております。
- ③ 工事損失引当金
当連結会計年度末手持工事のうち損失が見込まれ、かつ、損失額を合理的に見積ることができる工事について、当該損失見積額を計上しております。
- ④ 賞与引当金
従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、当連結会計年度の工事進行基準によった完成工事高は、6,505,878千円であります。

(5) 退職給付に係る会計処理方法

- ① 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ② 数理計算上の差異の費用処理方法
数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理しております。

(6) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

[連結貸借対照表に関する注記]

1. 有形固定資産の減価償却累計額 6,256,920千円

2. 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産	金額
建物・構築物	768,856千円
機械・運搬具・工具器具備品	305,740
土地	2,638,534
合計	3,713,132

担保に係る債務	金額
1年内返済予定の長期借入金	181,320千円
長期借入金	570,480
リース債務	60,000
合計	811,800

3. 工事損失引当金

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せず両建てで計上しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は8,500千円であります。

[連結損益計算書に関する注記]

1. 子会社株式売却損

100%所有の連結子会社であったさつま郷本舗㈱の所有株式を全て売却したことによるものであります。

2. 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

地域	主な用途	種類	金額
宮崎県宮崎市	遊休資産	土地	69,696千円
鹿児島県名瀬市	遊休資産	土地	28,126
鹿児島県薩摩川内市	遊休資産	土地	556
合計			98,380

当社グループは、事業セグメントを基準として、建設事業、コンクリート製品事業、不動産事業、売電事業、遊休資産にグループ化し、減損損失の認識を行っております。

主に所有土地について使用方法の見直しを行ったことにより、帳簿価額と回収可能価額との差額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、処分見込価額又は固定資産税評価額に基づき合理的な調整を行って算定した価額によっております。

[連結株主資本等変動計算書に関する注記]

1. 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数

普通株式 760,000株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年12月21日 定時株主総会	普通株式	37,918	50	平成29年 9月30日	平成29年 12月22日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成30年12月21日開催予定の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

- (イ) 配当金総額 45,495千円
- (ロ) 1株当たり配当額 60円
- (ハ) 基準日 平成30年9月30日
- (ニ) 効力発生日 平成30年12月25日

(注) 1株当たり配当額には、特別配当10円が含まれております。

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

[金融商品に関する注記]

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、短期的な運転資金や設備投資に必要な資金は主に銀行等金融機関からの借入により調達しております。また、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び完成工事未収入金等は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び工事未払金等は、が1年以内の支払期日であります。

短期借入金については、主として運転資金調達を目的としたものであります。短期借入金の一部は変動金利のため、金利変動リスクに晒されておりますが短期決済であり、金利変動リスクは限定的であります。

長期借入金については、設備投資を目的としたものは固定金利の契約であるため金利変動リスクはありませんが、変動金利の借入金は金利変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、販売管理規程に従い、営業債権等について営業部業務課が必要に応じて信用調査を行う等、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、連結子会社につきましても、当社の販売管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。また、連結子会社につきましても、同様の管理を行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき管理本部管理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。また、連結子会社につきましても、当社の管理本部管理部が指導を行い管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年9月30日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。（（注）2. 参照）

	連結貸借対照表計上額(千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金預金	587,849	587,849	—
(2) 受取手形・完成工事未収入金等	2,702,479	2,702,479	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	345,188	345,188	—
資 産 計	3,635,517	3,635,517	—
(1) 支払手形・工事未払金等	2,645,219	2,645,219	—
(2) 短期借入金	1,000	1,000	—
(3) 未払法人税等	48,227	48,227	—
(4) 社債	200,000	199,728	△272
(5) 長期借入金(1年内返済予定を含む)	751,800	751,568	△232
負 債 計	3,646,247	3,645,743	△504

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金預金、(2) 受取手形・完成工事未収入金等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託は取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

- (1) 支払手形・工事未払金等、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (4) 社債、(5) 長期借入金（1年内返済予定を含む）

社債及び長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規発行又は新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区 分	連結貸借対照表計上額（千円）
非 上 場 株 式	694,583

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

〔賃貸等不動産に関する注記〕

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社グループは、鹿児島県内を中心にホテル施設等を有しております。また、所有する土地の一部に遊休資産があります。

2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

連結貸借対照表計上額（千円）	時 価 （千円）
2,169,917	3,084,160

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 当連結会計年度末の時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額及び不動産鑑定評価基準に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。

〔1株当たり情報に関する注記〕

1株当たり純資産額	8,550円33銭
1株当たり当期純利益	322円91銭

貸借対照表

(平成30年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流動資産	3,660,530	流動負債	3,677,124
現金預金	434,288	支払手形	1,387,789
受取手形	150,795	工事未払金	1,091,326
電子記録債権	161,045	買掛金	109,726
完成工事未収入金	2,216,688	1年内返済予定の長期借入金	181,320
売掛金	130,720	リース債務	30,300
製品	120,412	未払金	74,356
販売用不動産	89,206	未払費用	120,016
未成工事支出金	48,485	未払法人税等	48,227
仕掛品	5,815	未成工事受入金	392,446
材料貯蔵品	34,108	完成工事補償引当金	7,600
前払費用	3,233	工事損失引当金	8,500
繰延税金資産	107,022	賞与引当金	134,199
その他	158,708	災害損失引当金	855
固定資産	7,528,849	その他	90,458
有形固定資産	6,159,472	固定負債	1,117,006
建物・構築物	1,270,772	社債	200,000
機械・運搬具	650,078	長期借入金	570,480
工具器具備品	24,765	リース債務	189,800
土地	3,975,056	繰延税金負債	45,694
リース資産	220,100	退職給付引当金	31,602
建設仮勘定	18,700	資産除去債務	17,368
無形固定資産	25,574	その他	62,061
ソフトウェア	15,073	負債合計	4,794,131
その他	10,500	(純資産の部)	
投資その他の資産	1,343,802	株主資本	6,295,181
投資有価証券	1,039,772	資本金	1,319,000
関係会社株式	80,000	資本剰余金	1,278,500
その他	486,508	資本準備金	1,278,500
貸倒引当金	△262,478	利益剰余金	3,702,825
資産合計	11,189,380	利益準備金	198,125
		その他利益剰余金	3,504,700
		別途積立金	2,500,000
		繰越利益剰余金	1,004,700
		自己株式	△5,144
		評価・換算差額等	100,067
		その他有価証券評価差額金	100,067
		純資産合計	6,395,248
		負債・純資産合計	11,189,380

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(平成29年10月1日から
平成30年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本							
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金			自 己 株 式	株 主 資 本 計 合
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金計		
				別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金			
当 期 首 残 高	1,319,000	1,278,500	198,125	2,500,000	810,930	3,509,055	△4,805	6,101,749
当 期 変 動 額								
剰 余 金 の 配 当					△37,918	△37,918		△37,918
当 期 純 利 益					231,688	231,688		231,688
自 己 株 式 の 取 得							△338	△338
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)								
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—	193,770	193,770	△338	193,431
当 期 末 残 高	1,319,000	1,278,500	198,125	2,500,000	1,004,700	3,702,825	△5,144	6,295,181

	評 価 ・ 換 算 等 差 額	純 資 産 計 合
	そ の 他 有 価 証 金 評 価 差 額	
当 期 首 残 高	124,688	6,226,438
当 期 変 動 額		
剰 余 金 の 配 当		△37,918
当 期 純 利 益		231,688
自 己 株 式 の 取 得		△338
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)	△24,620	△24,620
当 期 変 動 額 合 計	△24,620	168,810
当 期 末 残 高	100,067	6,395,248

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

個別注記表

〔重要な会計方針に係る事項に関する注記〕

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式……………移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……………事業年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの……………移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

販売用不動産……………個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

未成工事支出金……………個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

製品、仕掛品及び材料……………総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

貯蔵品……………最終仕入原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物・構築物 8年～50年

機械・運搬具 4年～17年

工具器具備品 3年～10年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 完成工事補償引当金

完成工事の瑕疵担保の費用に備えるため、過去における完成工事高に対する補修費の割合を基礎に将来の補修費の見込額を加味して計上しております。

(3) 工事損失引当金

当事業年度末手持工事のうち損失が見込まれ、かつ、損失額を合理的に見積ることができ工事について、当該損失見積額を計上しております。

(4) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込み額に基づき計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

4. 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、当事業年度の工事進行基準によった完成工事高は、6,475,395千円であります。

5. その他の計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

〔貸借対照表に関する注記〕

1. 関係会社に対する金銭債権債務

短期金銭債権	1,440千円
短期金銭債務	3,456

2. 有形固定資産の減価償却累計額 6,252,135千円

3. 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保資産の種類	金額
建物・構築物	768,856千円
機械・運搬具・工具器具備品	305,740
土地	2,638,534
合計	3,713,132

担保に係る債務	金額
1年内返済予定の長期借入金	181,320千円
長期借入金	570,480
リース債務	60,000
合計	811,800

4. 工事損失引当金

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せず両建てで計上しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は8,500千円であります。

5. 保証債務

次の関係会社の銀行借入債務に対し保証を行っております。

・ 懶ケイテック 1,000千円

[損益計算書に関する注記]

1. 関係会社との取引高	売上高	1,631千円
	外注費	45,050
	その他営業取引	12,773

2. 子会社株式売却益

100%所有の子会社であったさつま郷本舗(株)の所有株式を全て売却したことによるものであります。

3. 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

地 域	主な用途	種 類	金 額
宮 崎 県 宮 崎 市	遊 休 資 産	土 地	69,696千円
鹿 児 島 県 名 瀬 市	遊 休 資 産	土 地	28,126
鹿 児 島 県 薩 摩 川 内 市	遊 休 資 産	土 地	556
合 計			98,380

当社は、事業セグメントを基準として、建設事業、コンクリート製品事業、不動産事業、売電事業、遊休資産にグループ化し、減損損失の認識を行っております。

主に所有土地について使用方法の見直しを行ったことにより、帳簿価額と回収可能価額との差額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、処分見込価額又は固定資産税評価額に基づき合理的な調整を行って算定した価額によっております。

[株主資本等変動計算書に関する注記]

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式 1,743株

[税効果会計に関する注記]

繰延税金資産の発生の主な原因は、賞与引当金、繰越欠損金等であり、繰延税金負債の発生の主な原因は、その他有価証券評価差額金、固定資産圧縮積立金であります。(評価性引当額は、738,397千円であります。)

[1株当たり情報に関する注記]

1株当たり純資産額	8,434円14銭
1株当たり当期純利益	305円53銭

連結計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

平成30年11月20日

コーアツ工業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 川 畑 秀 二 ⑩
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 西 元 浩 文 ⑩

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、コーアツ工業株式会社の平成29年10月1日から平成30年9月30日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、コーアツ工業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をの重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

平成30年11月20日

コーアツ工業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 川 畑 秀 二 ㊞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 西 元 浩 文 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、コーアツ工業株式会社の平成29年10月1日から平成30年9月30日までの第60期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適正な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をの重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、平成29年10月1日から平成30年9月30日までの第60期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の結果、監査役全員の一致した意見として、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の従業員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ①取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び従業員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ②事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び従業員等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成30年11月26日

コーアツ工業株式会社 監査役会

常勤監査役 萩原 清文 ⑩

社外監査役 石堂 和雄 ⑩

社外監査役 松野下 剛市 ⑩

以上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金処分の件

剰余金処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

第60期の期末配当につきましては、当期の業績並びに今後の事業展開等を勘案し、普通配当50円に特別配当10円を加えて、以下のとおりといたしたいと存じます。

① 配当財産の種類

金銭といたします。

② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき普通配当50円に特別配当10円を加えて金60円といたしたいと存じます。

なお、この場合の配当金総額は45,495,420円となります。

③ 剰余金の配当が効力を生じる日

平成30年12月25日といたしたいと存じます。

第2号議案 取締役1名選任の件

取締役 御領敏博氏は、本定時株主総会終結の時をもって辞任いたします。つきましては、取締役1名の選任をお願いするものであります。なお、新たに選任された取締役の任期は当社の定款の定めにより、他の現任取締役の任期の満了する時までとなります。

取締役候補者は次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社の株式数
まえ だ とし ひろ 前 田 俊 広 (昭和30年12月28日生)	昭和53年4月 株式会社鹿児島銀行入社 平成20年6月 同行取締役川内支店長 平成24年6月 同行常務取締役 平成26年6月 かぎん代理店株式会社代表取締役 平成28年5月 鹿児島ビル不動産株式会社代表取締役(現任)	-
<p>【取締役候補者とした理由】 候補者は、金融機関における長年の経験と豊富な知識を有し、また経営者としての経験も有しており、独立的な立場から当社の経営に活かせると判断し、社外取締役候補者といたしました。</p>		

- (注) 1. 候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 取締役候補者の前田俊広氏は、社外取締役候補者であります。
3. 当社は会社法第427条第1項の規定に基づき、社外取締役との間に同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めており、社外取締役候補者の前田俊広氏の選任が承認された場合、責任限定契約を締結する予定であります。なお、当該契約に基づく賠償責任の限度額は法令の定める最低責任限度額としております。
4. 前田俊広氏は東京証券取引所及び福岡証券取引所の定めに基づく独立役員の候補者であります。

第3号議案 監査役3名選任の件

本定時株主総会終結の時をもって監査役全員（3名）が任期満了となります。つきましては、監査役3名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案については監査役会の承認を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する当社の株式数
1	はぎ はら きよ ふみ 萩原清文 (昭和30年12月13日生)	昭和51年4月 当社入社 平成18年4月 当社執行役員技術本部長 平成18年12月 当社取締役技術本部長 平成22年1月 当社取締役土木副本部長 平成26年4月 株式会社ケイテック代表取締役 平成27年11月 当社入社 平成27年12月 当社常勤監査役(現任)	1,100株
<p>【監査役候補者とした理由】 候補者は、技術部門の統括任務を遂行することにより、技術全般において豊富な経験と実績・見識を有し、また経営者としての経験も有しており、監査役として職務を適切に果たせると判断し、引き続き監査役候補者といたしました。</p>			
2	いし どう かず お 石堂和雄 (昭和23年6月21日生)	昭和43年9月 有限会社石堂建設入社 昭和53年6月 同社専務取締役 昭和59年5月 同社代表取締役社長(現任) 平成17年12月 当社監査役(現任)	10,300株
<p>【監査役候補者とした理由】 候補者は、経営者として培われた経験豊富な経営者の観点より、社外監査役として経営の監視や適切な助言をいただけるものと判断し、引き続き監査役候補者といたしました。</p>			
3	まつのした ごう いち 松野下剛市 (昭和35年4月11日生)	平成元年10月 監査法人トーマツ入所 平成12年12月 監査法人トーマツ退所 平成13年1月 松野下剛市公認会計士事務所所長(現任) 平成13年1月 フェアサイド総合税務会計事務所入所(現任) 平成13年3月 松野下剛市税理士事務所所長(現任) 平成22年12月 当社監査役(現任)	-
<p>【監査役候補者とした理由】 候補者は、長年の公認会計士として培われた見識により、社外監査役として経営の監視や適切な助言をいただけるものと判断し、引き続き監査役候補者といたしました。</p>			

- (注) 1. 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 石堂和雄氏、松野下剛市氏は、社外監査役候補者であります。
3. 石堂和雄氏は、現在、当社の社外監査役であり、監査役としての在任期間は本株主総会終結の時をもって13年となります。
4. 松野下剛市氏は、現在、当社の社外監査役であり、監査役としての在任期間は本株主総会終結の時をもって8年となります。
5. 当社は会社法第427条第1項の規定に基づき、社外監査役との間に同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。社外監査役候補である石堂和雄氏

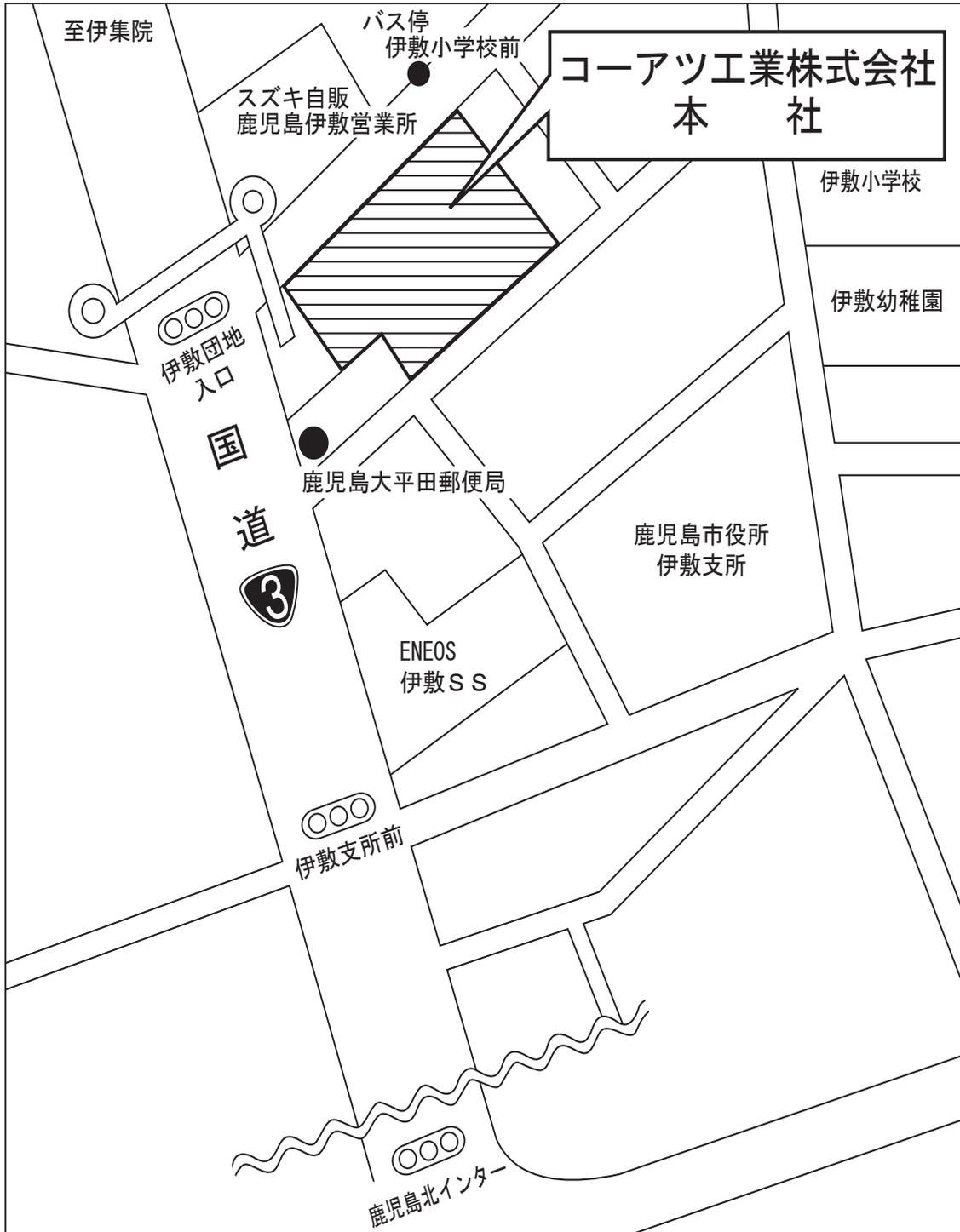
及び松野下剛市氏の再任が承認された場合、責任限定契約を継続する予定であります。なお、当該契約に基づく賠償責任の限度額は法令の定める最低責任限度額としております。

6. 当社は松野下剛市氏を東京証券取引所及び福岡証券取引所の定めにに基づく独立役員として届け出ております。同氏の再任が承認された場合は、引き続き独立役員とする予定であります。

以 上

株主総会会場ご案内図

会 場：鹿児島市伊敷五丁目17番5号 当社本社 3階会議室
T E L：099-229-8181



●会場までの交通のご案内

- ・鹿児島中央駅発バス 伊敷小学校前下車 1分
- お願い：駐車場が手狭のため、お車でのご来場はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。